

# 夏秋



センダイハギの実



ヒョウタンボクの実



**アキノキリンソウ(秋の麒麟草)**  
(キク科)  
日当たりの良い山野に生える多年草。根生葉はふつう花期には枯れる。黄色の頭花を多数つける。



ヒョウタンボクの花



**エゾリンドウ(蝦夷竜胆)**  
深山の湿地帯に生える多年草。葉は対生し、裏面は粉白を帯びる。



**ツリガネニンジン(釣鐘人参)**  
(キキョウ科)  
俗にトトキと呼ばれ、うまい山菜のひとつ。葉は茎をかこむように生え、茎や葉を切ると乳液を出す。和名は太い根をチョウセンニンジンにたとえ、花をつり鐘に見たてて名づけられた。



ササの花



**ナガボノシロワレモコウ(長穂の白吾木香)**  
(バラ科)  
湿った草地に生える多年草。根生葉は柄があり、11~15個の小葉からなる。花穂は枝先につき、直立または、下垂し、白緑色。高さ0.8~1.3m。



ヨモギの花



**ミソソバ(溝蕎麦)**  
(タデ科)  
別名ウシノヒタイ。葉の形が牛の顔(額)を思わせることになる。やや湿ったところに群生する。茎には下向きの刺があり下部は地を這う。

## その他の植物

**春** カシワ、キツネヤナギ、ヤマナラシ、チマキザサ、コメガヤ、ヒメタガンデソウ、スズメノヤリ、ミヤコグサ、コウゾリナ、ヒメシダ、スイバ、アサツキ、ニガナ、ヒメオドリコソウ、スカシユリ、ヘラオオバコ、アゼスゲ、カワラマツバ、コウホネ、シロネ、ヒツジグサ、チドメグサ、ヒメジオン、ミズナラ、メマツヨイグサ、オランダミミナグサ、ヒメシダ、ヌルデ、ハギ、ツルフジバカマ、イ、カセンソウ、ウツボグサ、アキカラマツ、ウキヤガラ、ダイコンソウ

**夏~秋** ヤマブドウ、イタドリ、スススキ、アキカラ、マツ、オトギリソウ、ミズギク、ハンゴンソウ、ヨメナ、タムラソウ、アザミ、ツユクサ、ノコンギク、ヨモギ、チガヤ、シロバナサクラタデ、サウヒヨドリ、イヌタデ、オニユリ、イブキボウフウ、ムジナスゲ、ケカモノハシ、カモノハシ、アブラガヤ、チゴザサ

**海岸植物** ハマエンドウ、ツルウメモドキ(ヤマガキ)、ハマヒルガオ、ツタウルシ、カワラヨモギ、ハマハタザオ、オオウシノケグサ、アオツツラフジ、ハイネズ、コウボウムギ、ウンラン、ハマニンニク、オニハマダイコン、ハマナス、エゾボウフウ、シオデ



# ベッセ湿原の花物語



# 春



**ニッコウキスゲ(日光黄菅)**  
(ユリ科)  
日光に多くキスゲに似ているというのでこの名があり、別名ゼンテイカ(禅庭花)。多年草で高さ70cm内外。花は濃い橙黄色で朝開いて夕方しぼむ。



**ノハナショウブ(野花菖蒲)**  
(アヤメ科)  
湿地や草地に群生する多年草。葉の太い中脈が目立つ。赤紫色の花をつける。外花被片は長さは約7cmまで、中央部に淡黄色の細かい斑紋がある。

# 夏



**ヒメハギ**  
(ヒメハギ科)  
マメ科のハギに似ているためついた名前。マメ科の花びらが5枚に対し、ヒメハギは3枚。小さい上にシバなど他の草に隠れるように生え、しかも地を這うように伸びる。



**マイズルソウ(花)**  
(ユリ科) (舞鶴草)  
葉を2個広げた姿を鶴が舞う姿にたとえた。より海岸線に向かう針葉樹林内に群生している。



**カキラン**  
(ラン科)  
日当たりのよい湿地に生える。葉は5~10枚が茎の中ほどより上に互生。和名は「柿蘭」は花の色による。



**アズマギク**  
(キク科)  
本州の中部以北に分布。多年草で丈は10~30cmぐらい。花は直径3cmほどで、淡紅紫色、束になって生える。



**ミツバツチグリ(三葉土栗)**  
(バラ科)  
土栗に似ていて葉が3小葉による。山野の日当たりの良いところに生える多年草。地下に肥大した根茎があり根茎が栗に似ていることからその名がある。



**ヒメレンリ草(姫連理草)**  
(マメ科)  
連理は、男女の深い契りのたとえ。小葉がきれいに対生している湿った草地に生える多年草。茎は直立し、両側に狭い翼がある。巻きひげがある。



**センダイハギ(先代萩)**  
(マメ科)  
野の花らしからぬ派手さがある。ベンセ湿原では、花から実になるまで、しっかり鑑賞できる。



**ホタルカズラ(蛍蔓)**  
(ムラサキ科)  
花の色を蛍の光にたとえたもの。乾いた草地や林縁に生える多年草。花後横に這う長い枝を出し、新しい株をつくる。



**ヤマドリゼンマイ**  
(ゼンマイ科)  
明るく広げた山地の湿原などに群生する。ゼンマイは白っぽい綿毛をかぶるのにヤマドリゼンマイは淡褐色の綿毛をつけるので簡単に区別できる。ヤマドリの尾によく似ることからこの名がある。



**サワギキョウ**  
(キキョウ科)  
古くから、さまざまな花道書に取り上げられ茶花として親しまれている。下から花が咲き上がる。全草毒がある。



**エソミソハギ(蝦夷稗萩)**  
(ミソハギ科)  
湿地に生える多年草。ミソハギに似ているが、茎や葉、花序などに短毛がある。葉は対生する。



**トキソウ(朱鷲草)**  
(ラン科)  
花の色がトキの羽の色を思わせることによる。日当たりの良い酸性の湿地に生える多年草。地下茎は細く横に這う。



**ミズドリ(水千鳥)**  
(ラン科)  
日当たりの良い水湿地に生える多年草。花は芳香があり、ジャコウ千鳥の別名がある。穂状の花序に白色の花を多数つける。



**オカトラノオ(岡虎の尾)**  
(サクラソウ科)  
花序を虎の尾に見立てたもの。丘陵の日当たりのよい草地に生える多年草。地下茎を長く伸ばしてふえる。



**モウセンゴケ(毛氈苔)**  
(モウセンゴケ科)  
葉に赤い毛が多く、水苔上に一面に群生する姿を毛氈に見立てたもの。日当たりの良い湿地に生える多年草。水中にも生える食中植物で葉の表面に粘液を出す腺毛がある。



**クサレタマ(草連玉)**  
(サクラソウ科)  
花がマメ科の低木レダマに似ているからと言われるが実は、あまり似ていない。別名は花の色から硫草草。やや湿り気のあるところに生える。地下茎を伸ばしてふえる。茎には短い腺毛と短毛がやや密に生える。



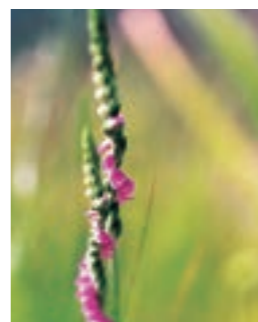
**カワランデシコ(河原撫子)**  
(ナデシコ科)  
山野の日当たりの良い草地や河原に生える多年草。花は茎頂にまばらに咲き淡紅色で直径4cm。



**タチギボウシ(擬宝珠)**  
(ユリ科)  
1本の細長い茎にラッパ型の花がつく。和名は蕾が橋の欄干の宝珠に似ていることからくる。「ウルイ」という夏の山菜にもなる。



**ノコギリソウ(鋸草)**  
(キク科)  
山地の草原に生える多年草。高さ0.5~1mになり葉とともに軟毛があり、上部の葉液から枝分かれする。葉は互生し、鋸のようにギザギザしているのが特徴。



**ネジバナ(掬花)**  
(ラン科)  
花序がねじれていることによる。ラン科の植物にしては、珍しく繁殖が旺盛。株になって二回転していたり直線になっていたり、右巻き左巻きとさまざま。ひとつひとつ観察すると面白い。



ゴウオン (タイツリスゲ)



エゾスカシユリ



ブタナ (タンポポモドキ)

ミズバショウ

マイズルソウ (実)